



寺だより

平成30年極楽寺お盆号



お知らせ



五重相伝に参加する意義

「浄土宗はよろしいですね。五重相伝というのがあって、参加された人は必ずお念仏の熱心な信者さんになるそうですね。私の方には、その様なことがないので残念です」と他の宗派の方々がよく言います。五重相伝会は私たちの先輩が、遠い昔から残してくれた伝統のある大変有り難い行事です。

「昔から生涯に一度は必ず参加すべきだ」と言われているが、現代のような多忙な世の中に、何日間も寺に通いつめて終日行をしたり、法話を聞いたりなんかとてもできないことだ」となどと思いつつも、住職さんや世話方さん達にすすめられて参加される人もいます。もちろん自分から法を求めてこられる人もたくさんいます。しかし、それにしては五重相伝が終わった時に「参加させていただいてよかった、本当に有り難か未」と多くの方が言うようになります。信仰は、本を読んだり、自分一人で修行をしたりではなかなか身につくものではありません。特別な場所で心を同じくする人達とお経を読んだり、お拜をしたり、法話を聞いたりすることによって、自然に正しい信仰が身につくのです。そして、その数日間が、私たちの人生の中で大きな転換期となる重大な意味を持つ時となるのです。

平成31年1月13日(日)～1月17日(木)の日程で五重相伝を行ないます。(詳しい日程表は寺にご用意してあります)

「ご先祖さまお帰りなさい」と全国のお家からそんな声が聞こえてくる季節となりました。

檀信徒各家皆様には、益々ご健勝のことと存じます。また日頃より寺門繁栄にお力添えを賜り厚く御礼申し上げます。

春が別れと新たな出会いの季節なら、夏は再会の季節といえるかもしれません。もうすぐやってくる月遅れ盆の長いお休みに、帰省を予定されている方も少なくないと思います。懐かしい顔ぶれに会うのを楽しみに。

昨年のお盆は一緒に過ごしたあの人を、この一年の間に極楽浄土にお見送りました、という方もいらっしゃるでしょう。

意訳

法然さまの御歌



花の心消こ
の台はえこ
ぞ同ぬ彼
じとぬ処
もにて

まるで露のようにはかない命の私たち。でもたとえどこで最期を迎えることになったとしても、互いの思いは極楽浄土の同じ蓮の台に生かれます。必ずやあ会いできましよう。

浄土宗がよりどころとするお経「阿彌陀經」に示される

「眞一處」の教えには念仏をとたえれば終の時には必ず極楽浄土へ生まれ往く、そして「眞に一つの処で会する」つまり先立った方々と再び会うことができる、とあります。

生前、どんな方々の方とつながりをもっていたとしても残念ながら死出の旅路には独り就かぬはなりません。しかし極楽浄土では懐かしい方々がお待ちです。

そのことを胸にとどめ前を向いて歩いていきましょう、と法然上人は御歌にこめられたのです。

ご先祖が極楽浄土から連れ立てこの世の私たちに会いに来られるお盆。夏のひととき、まずは娑婆での再会を果たし、心からおもてなしをして下さい。

ありがとう



おかげさまで

施餓鬼大法要

平成29年7月～平成30年6月の新盆精霊供養

8月17日(金)

○諷誦回向

(午前7時40分～12時)

○附施餓鬼会(午後1時)

※副住職 法話並に詠唱(追善供養和讃)

※塔婆回向(午後1時半)

諷誦回向料 1,000円

塔婆回向料 3,000円



「目を開いたまま眠る魚のように寝る間も惜しんで修行に励みなさい」という教えが込められています。

眠気覚ましの役割もあります。魚の模様には、

木魚
ポクポクポク：
木魚の心安らぐ音色。読経と合わさることで一体感が生まれます。木魚はお経のリズムを整えるだけでなく、眠気覚ましの役割もあります。

暮らしと祈り

お寺からのご案内やお知らせが届きます様に **新住所** に変わりましたら恐れ入りますが、お寺まで必ずお知らせ願ひ申し上げます。

今年は蓮の花が見事に咲いています。まだ「つぼみ」は多くありしばらくは咲きつづけると思ひますが、お墓参り等の節には客殿より蓮の花をながめしばしの休息を楽しんで下さい。

